

平成十五年度入試報告

合格数九百に

進路指導部長 成島義己

平成十五年度入試では、東大三十二名(新卒二十二名)が合格しました。東大合格数は五年連続で三十の台を維持し、全国公立高中第二位であります。また、京大に四名(新卒一名)、一橋大五名(新卒四名)、東工大十二名(新卒七名)、東北大三十二名(新卒二十名)、筑波大四十四名(新卒三十二名)の合格を出し健闘しました。特に東北大の三十人台は本校初の快挙であり、本校の輝かしい実績に新たな一頁を加えるものとして賞賛に値します。筑波大も全国第一位の合格数です。その結果、新卒生の国立大学合格者はここ数年の壁であった百二十を超え、百二十三となりました。国立の合計では百二十九となりました。

私大の方では慶応大五十一名(新卒二十七名)、早稲田大九十九名(新卒五十七名)、上智大十九名(新卒十八名)、東京理科大百十三名(新卒四十六名)の合格者を出しました。特に早稲田大の数字が光ります。

私立大等を加えた合格者の総数は九百名(新卒四百四十一名)に達しました。かつては一千人の合格者を数えた年度もありますが、本校生の定数減や入試制度の変更などを考慮すると、近年では大変多い数であり、内容的にも充実していると言えます。

一方、五月一日現在での新卒生の進学者数は前年比四名増の百九十六名となっております。これまで

指摘されてきた難関大志向の傾向は今年も顕著で東大・京大・一橋大・東北・東工・筑波大の受験数が全体の七割近くを占めているため、進学率はやはり、五十五%にとどまりました。難関国立大を第一志望として他は受験しないか、私立大併願をするが、早稲田・慶応・上智等の大学以外では合格しても進学しない、という構図が徹底してきていまして進学者数の増加が困難な状況になっていきます。

週五日制、五教科七科目問題、新教育課程実施、大学の独立行政法人への移行など入試環境も激動の時代を迎え、見通しの立ちにくい中、世は挙げて浪人回避へと動きつつあるわけですが、本校生は多数浪人の傾向が続きます。法医学系や理科系ばかりでなく、文系系においても大学教育六年が標準化する中で、一年くらい浪人しても第一志望の国立大学へ入った方がよいという判断が根拠になっていくようです。

昨年度卒生の方は百七十名のうち、百四十一名が進学しました。東大・京大・東工大・一橋大・東北大・筑波大・早稲田大・慶応大および国立大医学部などへ多くの合格者が出ていて、雌伏一年の苦勞が偲ばれますが、すべてが第一志望を貫徹出来たわけではありませぬ。むしろ、第二の策として主要私大を併願し、合格できた所に入学するという現実的な組み立てを実行している者が多くなっています。

本校生が志を高く保ち、果敢に難関大受験に挑戦し、合格していくのは大変喜ばしい限りですが、希望に見合う実力養成という厳しい試験がこれからも続くと言えます。

平成15年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

大 学	合格者	新 卒
北海道大	4	3
東 北 大	32	20
茨 城 大	5	4
筑 波 大	44	32
千 葉 大	11	6
お茶の水大	3	3
東 京 大	32	22
東京外語大	1	1
東 工 大	12	7
一 橋 大	5	4
横 浜 国 大	8	3
名 古 屋 大	2	2
京 都 大	4	1
宇 都 宮 大	2	1
山 梨 大	1	0
埼 玉 大	3	3
電 気 通 信 大	1	0
群 馬 大	1	0
東京学芸大	4	2
金 沢 大	2	1

大 学	合格者	新 卒
宮 崎 医 大	2	0
佐 賀 大	1	0
信 州 大	1	0
大 阪 大	3	1
神 戸 大	1	1
九 州 大	3	1
東 京 芸 大	1	1
大阪外語大	1	1
東京農工大	2	1
広 島 大	1	0
国立大計	197	123
茨城県立医療	2	2
東京都立大	2	0
横浜市立大	2	2
名古屋市立大	1	1
公立大計	9	6
防 衛 大	4	2
防衛医科	0	0
大学校等計	4	2
国立短大計	0	0
私立短大計	3	0

大 学	合格者	新 卒
青山学院大	16	6
学 習 院 大	8	5
慶 応 大	51	27
国際基督大	3	2
上 智 大	19	18
中 央 大	32	15
津 田 塾 大	10	8
東京女子大	13	6
東京理科大	113	46
日本女子大	14	8
明 治 大	46	18
立 教 大	38	22
早 稲 田 大	99	57
法 政 大	34	16
北 里 大	11	5
芝 浦 工 大	19	2
日 本 大	13	4
東京電機大	10	3
私立大計	687	310
合格者総計	900	441